

船舶事故調査報告書

平成25年7月11日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 庄 司 邦 昭
 委員 根 本 美 奈

事故種類	火災
発生日時	平成25年1月11日（金） 15時45分ごろ
発生場所	大分県臼杵市臼杵漁港北東方沖 臼杵漁港北防波堤灯台から真方位051°2,200m付近 （概位 北緯33°08.1′ 東経131°50.6′）
事故調査の経過	平成25年1月17日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート 栄福丸、2.62トン 294-7568大分、個人所有 7.63m (Lr) × 2.15m × 0.73m、FRP ディーゼル機関、25kW、昭和54年9月
乗組員等に関する情報	船長 男性 64歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年4月25日 免許証交付日 平成21年2月5日 （平成26年11月8日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	機関室の内壁、電線、主機遠隔操縦装置等が焼損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、臼杵漁港北東方沖を同漁港に向けて帰航中、平成25年1月11日15時45分ごろ、船長が、開いていた機関室入口引き戸から出てくる煙を認めた。 船長は、主機を停止したのち、消火器を使用して消火活動を行ったところ、15時55分ごろ鎮火した。 船長は、主機の始動を試みたが、できなかったので、近くを航行中の漁船に手を振って救援を依頼し、来援した同船にえい航されて16時25分ごろ臼杵漁港に入港した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風速 約1.0m/s、視界 良好 海象：海上 平穏
その他の事項	主機は、本事故の3年前ごろに機関整備業者によって中古機関に換装され、その際、船長が、主機過給機出口側の排気管（以下「排気

	<p>管」という。)にラギングを巻いたが、機関室に入っても排気管の上部に近づくことはないと思い、排気管の上部にラギングを巻かなかった。</p> <p>船長は、夜間に航行中、ラギングの巻かれていない箇所の排気管が、熱で赤くなっていたことを認めていた。</p> <p>主機は、オイルミスト抜き管として外径約3 cm、長さ約1 mのビニールチューブが使用されており、同チューブの一方がクランク室に、他方が甲板上に設けられたグーズネック状の金属管にそれぞれ金属バンドで取り付けられていた。</p> <p>主機オイルミスト抜き管のビニールチューブ部分は、排気管との距離が約50 cmであった。</p> <p>主機のオイルミスト抜き管は、本事故後に点検したところ、クランク室にはビニールチューブが金属バンドで取り付けられていたが、それ以外のビニールチューブは、溶損し、グーズネック状の金属管側の金属バンドは、見当たらなかった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、臼杵漁港北東方沖を航行中、機関室から出火したものと考えられる。</p> <p>本船は、甲板上に設けられたグーズネック状の金属管にオイルミスト抜き管のビニールチューブを取り付けている金属バンドが脱落し、同チューブが外れてラギングの巻かれていない箇所の排気管に接触して燃え上がり、機関室の内壁等に延焼した可能性があると考えられるが、金属バンドの脱落、ビニールチューブと排気管との接触状況などを明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、臼杵漁港北東方沖を航行中、機関室から出火したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>船長は、本事故後、排気管のラギングの巻かれていなかった箇所にラギングを巻いた。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主機のオイルミスト抜き管の点検を十分に行うこと。